

第 6 回
神明 (明石川等) 地域総合治水推進協議会
議事概要

■日 時：令和 6 年 10 月 3 日（木）10:00～11:45

■場 所：明石市立文化博物館 大会議室

■出席者：別紙（一般傍聴者なし）

■議 題：

＜報告＞

- (1) 要綱の改正について
- (2) 兵庫県における総合治水の取組み
- (3) 国の流域治水の取組み

＜議事＞

- (1) 神明地域における取組み実績と課題
- (2) 計画改定の方向性、スケジュール

＜その他＞

- (1) 神戸地方気象台からの情報提供

■配付資料：

議事次第、出席者名簿、配席図

資料 1 神明（明石川等）地域総合治水推進協議会 設置要綱

資料 2 兵庫県における総合治水の取組み

資料 3 国の流域治水の取組み

資料 4 神明地域における取組み実績と課題

資料 5 計画改定の方向性、スケジュール

資料 6 令和 6 年度に実施する防災気象情報の改善について

参考資料 1 神明（明石川等）地域総合治水推進協議会 公開要領

参考資料 2 計画策定から現在までの経緯

参考資料 3 神明（明石川等）地域総合治水推進計画（令和 3 年 3 月）

参考資料 4 総合治水条例の概要（パンフレット）

参考資料 5 フォローアップシート

参考資料 6 減災対策アンケート（案）

1. 開会

あいさつ（東播磨県民局長）

委員及び出席者紹介（事務局）

あいさつ（会長）

- ・ 参考資料 2 「計画策定から現在までの経緯」について説明（事務局）

2. 報告

(1) 要綱の改正について

資料 1「神明（明石川等）地域総合治水推進協議会 設置要綱」について説明（事務局）

(2) 兵庫県における総合治水の取組み

資料 2「兵庫県における総合治水の取組み」について説明（総合治水課）

・明石川水系に河川ライブカメラはあるか。（県民委員）

→国道 2 号下流に設置している（事務局）

・P4 河川対策のグラフについて、最初の頃は改修率が急勾配で進捗していたが、近年勾配が緩くなっているのは何故か。（会長）

→河川改修については毎年計画的に進めている。特に大災害時には国庫補助等が付き改修延長が伸びるが、平常時は進められる範囲で進めることになるため、改修率が一気に伸びるというのは難しい。（総合治水課）

近年は、これまで整備してきた排水機場等の老朽化対策に予算が多く必要になってきている。河川改修も必要であるが、排水機場等を止めるわけにはいかないため、機械の更新等に予算がとられている。（事務局）

・P13 流域対策の校庭貯留について、県全体で 96 校実施しているが、参考資料 5 フォローアップシートを見ると神明地域では 11 校中 0 校と進捗していない。学校は教育機関であるため、学校におまかせでは取組みが進まない。県庁から教育委員会等を通じて働きかけが必要と考えられる。（県委員）

→毎年、教育委員会と協議し、取組みへの協力依頼をしているが、今後はより具体的に進めていきたい。（総合治水課）

・神明地区ではわからないが、山間部において太陽光パネル設置のため森林が伐採され雨水流出量が増えていると思う。このような開発を行う際に貯水槽を作るなどためる対策を進めないと、ながす対策だけでは不十分である。（県民委員）

→P13 の⑤のように、総合治水条例では 1ha 以上の開発で、流出が増える場合には調整池をつくるのが義務付けされている。1ha 未満の開発についても、努力義務として調整池設置の依頼をしている。（総合治水課）

神戸市では 0.3ha 以上の開発に対して調整池の設置を義務付けている。（神戸市委員）

(3) 国の流域治水の取組み

資料 3「国の流域治水の取組み」について説明（総合治水課）

3. 議事

(1) 神明地域における取組み実績と課題

資料 4「神明地域における取組み実績と課題」について説明（事務局）

・県では色々な対策を取っていると思うが、最近の雨を見ると線状降水帯等多発している。それに対して県はどのように考えているのか、また現在の対策でどの程度の雨まで対応できるのかお聞きしたい。（県民委員）

→国のほうでは、流域治水ということで対策が進められており、これに追従して県も対応していくことになると考えられるが、線状降水帯に対する直ちの対策は今のところない。課題としては認識している。（事務局）

P4 に記載しているように、明石川であれば昭和 20 年阿久根台風と同規模の洪水に対応するべく整備している。確率規模で言うと 30 年確率降雨程度である。(事務局)

・時間降雨で何ミリのレベルなのか。(会長)

→今は手元に資料がないので確認しておく。(事務局)

参考に明石市の下水道の場合は、7 年確率で 47mm/hr の雨を想定している。(明石市委員)

・近年の気象状況を見ると、「想定」、「想定外」というのを抜きにして考える必要があるのではと思う。(県民委員)

→神戸市では、P6 の河川対策は、緑色の線が 10 年確率、黒の太線が 30 年確率で整備する計画となっている。P7 の下水道対策は、10 年確率で 50mm/hr 程度の雨に対応するべく整備する計画となっている。整備の順番としては下流からになるため、時間を要する。(神戸市委員)

大河川では 100 年とか 150 年確率で整備されるが、中小河川では流域の資産、人口等を考慮して確率年が小さくならざるを得ない。(会長)

・フェニックス共済の加入率について、淡路地域は神明地域の 2 倍くらいである。神明地域も淡路地域と同じく震災を経験しているため、PR など努力すればもう少し伸びる余地があるように思う。保険の加入促進も重要な取り組みだと認識している。また、田んぼダムのセキ板配布の進捗はどのような状況か。(会長)

→参考資料 5「フォローアップシート」のとおり、田んぼダムのセキ板配布は、計画 215ha に対して実績 538ha で達成率 250%となっている。水田全体に対する割合は確認しておく。

(2) 計画改定の方針性、スケジュール

資料 5「計画改定の方針性、スケジュール」について説明(事務局)

4. その他

(1) 神戸地方気象台からの情報提供

資料 6「令和 6 年度に実施する防災気象情報の改善について」について説明(神戸地方気象台)

・一つ前の話になるが、林校区は合流式下水道で大雨時に心配である。林校区あたりの整備レベルはどれくらいか。(県民委員)

→船上浄化センターのエリアで 5 年確率：41mm/hr で整備している。また、昨今の予想外の雨に対して、令和元年に雨水ポンプの能力を増強し、海にすばやく大量に放流できるようにした。しかし、ハード対策には限界があるため、避難を含めたソフト対策(公助、自助)も必要だと考えている。(明石市委員)

・この 10 年ぐらいで、計画を超える降雨の実績はなかったのか。(会長)

→平成 16 年、20 年、30 年などに大きな降雨があった。7 年確率で降雨強度 47mm/hr なので、それをを超える雨が降っていたと考えられる。(明石市委員)

・伊川・明石川合流点付近に住んでおり、ハザードマップでは赤く塗られた地域である。合流式下水道で整備された地域であるため、東京でマンホールから噴水が上がったよう

なことを考えると、あふれた水には触れないほうがよいのか。(県民委員)

→合流式下水道は生活排水と雨水を一緒に流すものであるが、大雨の際にはかなり薄まっているので、体や付近の環境に影響することはほとんどないと考えている。ただ、先ほど話があったように下水道管内の空気が圧縮されてマンホールの蓋が一気に飛んでしまう危険性があるため、大雨の際は極力外出を控えてもらいたい。(明石市委員)

5. 閉会

以上

第6回神明(明石川等)地域総合治水推進協議会 出席者名簿

【委員】

区分	氏名	所属等	出欠
◎学識経験者	神田 佳一	独立行政法人国立高等専門学校機構 明石工業高等専門学校 名誉教授	出席
国	吉野 昌史	神戸地方気象台長	出席
兵庫県	野北 浩三	東播磨県民局長	出席
	内藤 良介 (代理)河澄 健輔	神戸県民センター長 (神戸県民センター神戸土木事務所所長補佐(企画調整担当))	代理出席
神戸市	久元 喜造 (代理)脇本 英伸	神戸市長 (神戸市建設局河川課長)	代理出席
明石市	丸谷 聡子 (代理)森本 康平	明石市長 (明石市都市局下水道部長兼次長(総合治水担当))	代理出席
県民	井上 慶三	玉津町自治会会長【神戸市】	出席
	濱口 眞壽	岩岡連合自治会会長【神戸市】	出席
	橋本 二三夫	王子校区連合自治会会長【明石市】	出席
	樽井 誠	林校区連合町内会会長【明石市】	出席

◎:協議会会長

神明(明石川等)地域総合治水推進協議会公開要領第11条2項に基づき、上記議事録について相違ないことを証明するためここに署名する。

神明(明石川等)地域総合治水推進協議会

会長：独立行政法人国立高等専門学校機構明石工業高等専門学校名誉教授

神田 佳一

明石市都市局下水道部長兼次長(総合治水担当)

森本 康平